

令和5年度(2023年度)事業計画

① 総務部

② 企画制作部

③ 事業推進部

④ おもちゃ美術館(準備室)事業部

⑤ 拠点事業部

わはは・ひろば高松

わはは・ひろば香西

わはは・ひろば坂出

高松コーディネーター

⑥ センター事業部

まろっ子ひろば

一時預かり

事務

坂出コーディネーター

①総務部 令和5年度 事業計画

チーム名	事業費	スタッフ数	利用者数・目標
総務部	- 円	小出 正1人	3,000 円以上の寄付者 100 人以上

【年度の行動目標】

主		今期の重点行動予定	SDGs
重点項目	① 経理システム変化への対応	インボイス制度、帳票のデジタル化への対応。各部門に対して必要な情報、処理について整理をして伝達の上、対応準備を進める。	9
	② 人材育成	人的資源に対する課題を整理しつつ、必要な研修や仕組みをスタートさせ、都度振り返りをしながら PDCA を回していく。昨年度整理をした、給与体系に沿った年次昇給、年1回賞与の実現。研修計画に基づいた研修実施。助成金も活用しながら、処遇改善を目指す。	8.10
	③ 職場環境の改善	引き続き3S 活動を全体で実施。3S リーダーのネットワーク会議を5月と1月の2回実施を予定。働き方アンケート年に1回継続実施。検診受診、有給休暇取得促進についても、継続実施。	8、9
	④ 面談・キャリア支援	スタッフ全員に対して半期に1度のリーダー面談、年に1度の理事長面談を実施。個人のキャリア支援としてのキャリアコンサルティングの機会を就業規則に基づいて実施。都度、必要に応じて相談できる窓口を継続開設。	8
	⑤ 会員フォロー	正会員、賛助会員への、会員向け活動報告を月 1 回メール配信。年に2回6月と1月に会員向けお便りを送付。	8.17

【事業チームとしての行動計画】

- ・インボイス制度、帳票のデジタル化等、制度の変化については、書類の読み込みや、会計事務所との連携を含め、しっかりと学びつつ、わははネットに必要な処理を整理し、わかりやすく部門へ伝達していくことを目指す。夏までに整えて、リーダー会にて周知の機会を持つ。
- ・年間の研修計画を作成し、必要な学びの場を作っていく。階層別(スタッフ・リーダー・マネージャー)、部門別の研修を必要に応じて、組み立てる。マネージャー会を中心に振り返りをしていく中で、より必要な研修について検討していく。
- ・面談については、年間カレンダーに沿って実施。
- ・キャリアアップ助成金の活用に向けて、キャリアアップ計画を策定の上、労働局に提出。計画に基づき、順次、対象者に向けての処遇改善を図る。
- ・キャリア面談についても、年間の予定表を作成の上、実施。

【計画達成へのポイント】

- ・マネージャー会を通して意識統一しながら、研修や面談実施等のために、どう時間を作っていけるか、シフトの調整や、人材確保について、見通しをもって主体的に考えていけるようにする。
- ・活動を広く知ってもらう対象として、新たに会員という視点を加え、毎月月初と年に2回の報告を年間スケジュールに組み込み実施。

②企画制作部 令和5年度 事業計画

チーム名	事業費	スタッフ数	利用者数・目標
企画制作	自主事業 24,150,000円	3人	45,540人

【年度の行動目標】

計画的営業と安定したチーム作り		今期の重点行動予定	SDGs	
重点項目	自主事業	子育て情報誌 『おやこ DE わはは』 (Vol.107～Vol.112) ■売上目標(税抜) 14,000,000円	・年間計画に沿って制作、営業を滞りなく実施する。 ・印刷費値上げが決定しているが、広告掲載費の値上げは行わない。 1号ごとの単発契約獲得を+4件を目標とする。 ・年間契約企業の開拓 ・企画提案営業に力をいれる ・アフターサービスの充実を図る(SNSでの発信、ひろばへの情報提供)	
		ソーシャルメディア・SNS の活用、情報発信 ■売上目標(税抜) 150,000円	・企業が発信したい内容を子育て家庭目線で伝え、広告収入に繋げる仕組みづくり。 ・SNS(LINE@、インスタグラム、フェイスブック)は計画的、継続的に配信を続ける。LINE@ 2,000名、インスタグラム 2,000名を目指す。	
		【新規】イベント ■売上目標(税抜) 4,000,000円	・11/12 開催決定。「子育て」をワードに様々な世代の人がかかわれる内容リニューアルして開催する。新規ブース数+13を目標。 ・応援ブースを新設。さまざまな立場や環境にある子どもや子育て家庭の支援を行っている団体の普及啓発できる場の提供。 ・わははネットスタッフからのアイデアなど取り入れられるよう、内部に早くから情報提供をしていく。	
		防災について	・誌面、SNSを通じて家庭防災を考える機会の提供。	
		総合的営業(らっこ) ■売上げ(税抜) 5,985,600円 (目標 6,000,000円)	・目標達成のため新規営業先の開拓を行う。 ・広告を提供しやすい提案を行う。(定型広告など)情報誌との連携営業 ・新規顧客に対して、たかまつらっこ掲載で情報誌広告掲載割引を提案。(契約につながった。) ・広告代理店向け説明会を実施。(3社)	
			情報誌、たかまつらっこ、讃岐おもちゃ美術館、ママフェス、SNSなどわははネットを知ってもらう営業を行う。	

【事業チームとしての行動計画】

人材確保・育成

- ・人材育成を行う。それぞれの担当の役割を理解し、思考、行動面で自分事として考えられるような育成を進めていく。
- ・ひろば、讃岐おもちゃ美術館との横の情報も収集しやすいよう、積極的に交流を図れるようにする。

営業

- ・情報誌は年間契約につながる新規顧客開拓。また、過去掲載実績のある企業に対しての再アプローチ。
- ・イベントはこれまで通り、子育てを応援する企業を中心にの企業アプローチをしていく。
- ・全事業通しての顧客データの一元化、事業全体、企業単体のデータを完成させ、共有、活用していく。月1回営業会議の実施。週1回の定例打合せ内での進捗確認を行う。

制作

- ・子育て家庭に確実に届けるため配本先の見直し。幼保全戸配布依頼を続ける。在庫100冊以内をめざす。
- ・担当者が自身の業務目標をたて、実施できるようにする。業務の進行確認は毎週行う定例ミーティングで確認する。
- ・制作、営業業務の基本的な行程を誰がいつみても分かるように情報共有を徹底する。

認知度UP

- ・SNS配信の目的の再確認を行い、その特性を活かした配信を行う。長期的、短期的な目標を立て登録者数アップにつなげる。

③事業推進部 令和5年度 事業計画

チーム名	事業費	スタッフ数	利用者数・目標
事業推進部	27,506,855 円	小出 正2・P2 人	101,065 人

【年度の行動目標】

主	新規スタッフを育成しつつ、滞りない事業の実施	今期の重点行動予定	SDGs
重点項目	①令和5年度版子育てハンドブックの協働発行事業(高松市)	確実に分かりやすい情報提供に努める。受託最終年度となることから、次年度以降の受託についても視野に入れて進める。	3.17
	②高松子育て支援総合情報発信事業(高松市) ¥1,082,400	冊子改訂情報の速やかなWEBへの反映。役所と連携しながら、都度必要な情報提供に努める。次年度はサイトのSSL認証を計画。	3.17
	③ひとり親等支援総合情報発信事業(高松市) ¥1,615,955	引き続き正しい情報提供に努めるとともに、メール相談にも迅速に対応していく。次年度はサイトのSSL認証を計画。	3.17
	④子育て支援人材養成事業(香川県) ¥8738,000	新スタッフ体制で臨む。滞りない研修実施と、受講者が安心して学ぶことができる事務局体制を目指す。	3.4.17
	⑤ライフデザイン事業 ¥1,334,000	県内の高校生約800名に向けてのライフデザイン授業を実施。助産師会と連携しながら、円滑な事業実施を目指す。	3.4.5.17
	⑥仕事と子育ての両立に関わる事業 ¥200,000	香川銀行の育休プログラム継続実施。育休復帰オンライン、リアルでのパートナーシップ講座を年間計画に沿って実施。	5.8.17
	⑦乳幼児とのふれあい事業(高松市) ¥280,000	下笠居中学校(新規)1クラス、勝賀中学校7クラスに向けてふれあい体験授業を拠点スタッフと連携しながらリアル開催。	3.5.17
	⑧女性リーダー養成講座(香川県) ¥4,000,000	連続講座の女性リーダー養成講座を実施。メンター事業の参加者、過去の受講者も含め、県内の女性リーダーのネットワーク構築を目指す。	3.5.8.17
	⑨放課後児童支援員養成研修(高松市) ¥1,920,000	受講者150名程度の放課後児童支援員養成研修を実施。新スタッフ体制で、円滑な事業実施を目指す。	3.4.17
	⑩女性が輝く職場づくり支援事業(香川県) ¥2,400,000	県内の企業20社程度(新規10社以上)に向けて、メンター育成の継続研修を実施。伴走支援を通して都度、各社の課題や状況を確認しながら進める。	
	⑪【新】G7 香川・高松都市大臣会合関連事業 ¥1,996,500	讃岐おもちゃ美術館を使った、G7参加国に関するおもちゃを通じて、遊び・食・文化を伝え歓迎機運を醸成する。(株)tao.とおもちゃ美術館事業部と連携しながら事業実施を進める。	3.5.8.17
	⑫【新・予定】男性の家事・育児推進事業(香川県) ¥3,940,000	男性の育休が推進される中、男性が家事・育児のスキルを学ぶ機会を提供し、夫婦の子育てを応援する講座や講演会を実施する。	

【事業チームとしての行動計画】

継続事業については、これまで実施してきていることを確実に継続できるようにすることを目指すとともに、事業の目的達成のために改善すべきところがないか常に見直す視点を持つ。計画を都度振り返りながら、確実な事業実施を目指す。チームスタッフ全員が、新規スタッフの育成の視点を持ち、各々の業務の中で連携、伝達をしていく。

【計画達成へのポイント】

- ・定例の月曜ミーティングの機会を大切にす。自分の担当のみならず、チームの事業の進捗に意識を向ける。
- ・早期の新スタッフ雇用を進め、育成を行う。

④おもちゃ美術館事業部 令和5年度 事業計画

チーム名	事業費	スタッフ数	利用者数・目標
おもちゃ美術館事業部	39,200,250 円	中橋・小出(山下) ディレクター4名 パート 5名	50,000 人 (有料来館者 40,000 人)

【年度の行動目標】

主	『みんなの檜舞台』を創っていく	今期の重点行動予定	SDGs
重点項目	① 入館者目標 50,000人 /年	・通常来館者、平日団体利用、観光客、それぞれターゲットごとの来館者目標を定め、具体的行動目標を定めて実行する。 ・医療的ケア児を支援する団体をはじめ、他の団体と連携を取りながら、すべての子どもたちがおもちゃに触れる機会を創出していく。	3.4.8.10
	② 経営基盤づくり	・入館料以外の継続的な収入の仕組みを作る(主に企業に向けて、寄付やチケット買取の仕組み) ・いつ来ても新しい体験ができるということを、イベントを通して組み立てていく。	8.9
	③ チーム力強化	・チーフディレクター、ディレクターの役割をさらに明確化した上で、日常の困りごとに対して、都度ミーティングの機会を活用して対応を検討していく。 9月、2月のメンテナンス休館中と、3 か月毎の全体ミーティングの機会をとらえて、研修を実施していく。 ・イベントが企画できる方、来館者の対応が得意な方など、お一人お一人のおもちゃ学芸員の活躍の舞台を創っていく。	8.17
	④ 施設管理	・来館者が安全・安心して過ごし、施設を通して讃岐の伝統工芸やそれを守り続ける人について理解し、おもちゃを通して豊かな経験が育まれるようにハード面・ソフト面を整えていく。	3.4.8..17

【事業チームとしての行動計画】

・昨年度利用してきた、予約入館システムを撤廃することによる混乱とデメリットを補完できるよう、準備を進める。特に受付での現金対応については、すべてのスタッフが一通り対応できるようにすることで休憩回しを容易にするとともに、メイン受付スタッフの役割をマニュアル化し、正確な小口現金処理ができるようにしていく。来館者の属性等がわからなくなることにに対しては、時期を決めてアンケートを実施し、広報計画に活かしていく。

【計画達成へのポイント】

・重点項目に対する具体的行動目標、年間カレンダーを作成の上、役割とゴールを明確にして進める。
・日常の流れの中での役割と、求められる業務内容、責任をあらためて明確にしながら、都度課題に対してはミーティングの場を活用してディスカッションしながら、よりよい姿を模索していく。

⑤拠点事業部 令和5年度事業計画

チーム名	事業費	スタッフ数	利用者数・目標
拠点事業部	26,711,000 円	正 4 P 11	①13,300 人 ① 45,000 人(関わった人の人数目標)
高松コーディネーター 事業	8,686,000 円	正 1 P2	①4,000 人

※①ひろば利用人数②ひろば利用人数・オンライン参加数・工作キット配布数・インスタフォロワー・動画再生数の合計

【年度の行動目標】

主		今期の重点行動予定
重点項目	① わはは・ひろば坂出	坂出市の出生数 40%の登録を目指すために、イベントの充実・赤ちゃん向けの通信の発行を行う。 スタッフのスキルアップのため、研修を充実させる。
	② わはは・ひろば高松	地域に出向く回数を増やし、スタッフだけではなくボランティアスタッフと一緒に活動を広げ、誰もが利用できる居場所となるように取り組む。
	③ わはは・ひろば香西	地域で行われているサークルへの訪問を増やし、まだひろばを知らない子育て家庭や地域の方と交流を持つ機会を増やす。また子どもが楽しめる機会を増やすために、家庭ではできない遊びを積極的に取り入れたイベントを企画する。 保護者の学びの機会を増やす。
	④ たかまつ地域子育て支援 コーディネーター	身近な相談相手となるために、ひろばスタッフと連携し CN の認知度をあげる。 利用者支援の基本を学ぶ。

【事業チームとしての行動計画】

- 地域子育て支援拠点ガイドラインの内容を定期的に学び、支援者のスキルを身につけていく。
- 拠点の中で親同士が気持ちを共感し主体的に子育てのイメージできるように予防型プログラムを実践し、子育てがしんどくなる前に相談し繋がりがもてるよう講座を行う。
- 妊娠期からひろばを利用し産後スムーズにひろばを利用できるように具体的な目標をたてて行動する。
- チームワーク向上のために、月 1 回の研修は必ず行い情報交換の場とする。
- チーム内ミーティング・面談を定期的に行い、リーダー同士で課題や工夫を共有する。
- CN がひろばで過ごす時間を増やし、利用者が CN の顔と役割を知り気軽に相談してもらえるようにかかわる。
- 利用者支援の基本と役割を学び、全員でスキルアップしていける勉強会の機会を定期的に設ける。
- 他団体や相談者からも信頼してもらえるチーム作る。

【計画達成へのポイント】

- ・スタッフ研修の目的を持った年間計画をたてる。
- ・どんなひろばを作りたいのか、そのためにどんな行動をするのかを目標シートに記入し、定期的に振り返りを行う。
- ・PDCA サイクルを定着させる。
- ・週 1 のミーティングを行い、分からないこと・改善点などを共有し積み残しのないようにしていく。

⑥センター事業部 まろっ子ひろば 令和5年度事業計画

チーム名	事業費	スタッフ数	利用者数・目標
さかいで子育て支援センターまろっ子ひろば	26,000,000 円	正 5 人 P 3 人 (求人 P1 人)	14,000 人

【年度の行動目標】

主	地域に根ざした施設	今期の重点行動予定	SDGs 関連
重点項目	① 幅広い層の利用	・妊娠期からの利用促進 ・館の特色を活かした利用を促す	3.4.18
	② 人材育成・体制を整える	・ひろばスタッフの体制を整える。 ・人材育成については、各事業目標、個人の目標を明確化し必要なスキルを知る。	8.10.
	③ 施設管理	・3Sを通して、備品・ルールブックの整理・館内整備を行う。 ・計画的な予算執行 ・業者による安全点検を実施しながら修繕計画を立てる。	3.4.8.17
	④ スタッフ連携	・館全体・各事業の計画予定を見える化し共有する。 計画表の作成と共有ツールの確定。 ・朝礼・ミーティングにて業務の進捗を共有できるようにする。	8.17

【事業チームとしての行動計画】

- ・新しい体制を整え安定させるため、定期的(月1回)な面談と目標管理シート(半期毎)を活用し課題などを早期に共有し話合える時間確保。仕組みをリーダーと考える。
- ・ひろば雇用に繋がるようにスタッフ全員で声掛け・掲載・SNS を利用し行う。
- ・事業、役割に応じた研修を計画し定期的に受ける。
- ・3Sにて施設内の整備やルールなどを計画的に整理。朝礼、月2回のスタッフミーティングで共有する。達成や振り返りを行う。
- 情報共有ツールの整理を行う。LINEworks を活用できるようにする。
- ・清掃や休憩は、誰がいつ行うなど明確にするためシートを再考し作成。休憩は朝礼にスタッフ全員で共有し実施できるように意識する。
- ・予実管理にて振り返りを定期的に行い、その都度、協議し執行する。

【計画達成のポイント】

- ・早期の人材確保。
- ・スタッフが必要に応じて安心して発言できる場をもてるようになる。
- ・ひとり一人の目標を明確にできるように考える時間をとる。朝礼やミーティングには議案共有や必要に応じた書類などを準備しLINEworks などを利用し共有する。
- ・事業ごと、館全体を双方に意識をもてようになる。